

第3学年国語科学習指導案

平成22年10月25日(月) 5校時
3年2組 男子21人 女子12人 計33人
指導者 國 生 美 沙

- 1 単元名 大事なことをたしかめよう
教材名 「すがたをかえる大豆」(説明文)
「食べものはかせになろう 一本で調べる」

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の児童は、第2学年での「たんぼぼのちえ」や「サンゴの海の生き物たち」の学習を通して、時間の順序による説明の仕方や事例を挙げた説明の仕方について、文脈に沿っておおよその内容を読み取る学習をしてきている。そして第3学年1学期の「ありの行列」で、接続語や指示語、文末表現、時間の経過を表す言葉に着目して読む経験をしてきている。また、「書くこと」については、第3学年1学期の「おもしろいもの、見つけた」で書きたいことを段落ごとにまとめて書く学習をしてきている。

本単元は、「すがたをかえる大豆」と「食べものはかせになろう」の2つの教材で構成される。「読むこと」と「書くこと」の複合単元である。身近な食べ物について興味をもち知識を広げるとともに目的に応じて大事なことを読み取り、それを生かして自分で調べたいことを文章にまとめることをねらいとしている。

「すがたをかえる大豆」は、身の回りにはあふれている大豆やその加工食品について書かれたものであるため、児童にも身近な題材といえる。しかし、見ただけでは大豆からできているとは思われないものも多く、意外性があり、さまざまにすがたをかえる大豆に興味をもって読み進めることのできる教材である。文章構成は、「はじめ」「中」「終わり」から成っており分かりやすい。

「中」の構成は段落が並列の関係にあり、段落ごとを接続する語句に着目することによって、大豆の加工方法を種類ごとにおさえることができる。各段落が、初めに中心文、その後それを支える文という論の展開と重要語句を繰り返しているため、大豆をおいしく食べる五つの工夫をとらえやすくなっている。これらのことから本教材は児童にとって、中心となる語句や文、段落相互の関係に注意しながら読み進めていくのに適した教材であると考えられる。この学習が発展して、後の「食べものはかせになろう」で書く活動につながるが、その際の分かりやすい参考例になると考える。

この学習は、第4学年で段落のつながりに気をつけて読む「かむことの力」、対比・まとめなどに気をつけて内容を把握し、選んで伝える「アップとルーズで伝える」の学習へと発展していくものである。

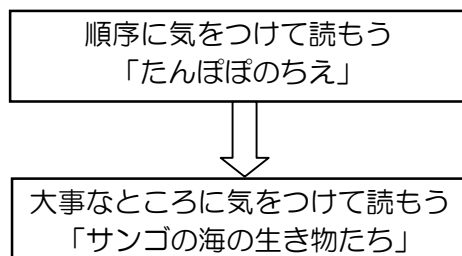
(2) 単元の系統

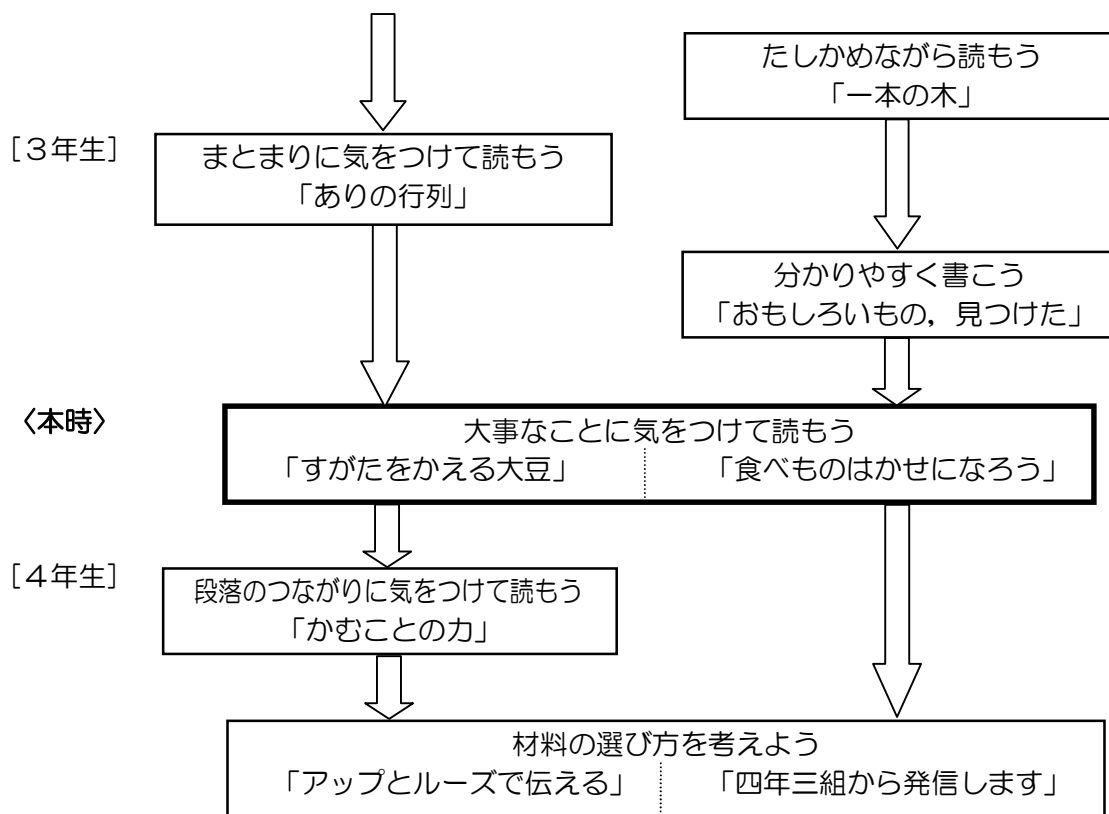
単元の系統は以下の通りである。

①段落やキーワードなどに注意しながら読み取る学習単元の系統

②教材文の内容を参考に、自分で調べたいものを選んでそれに関する情報を集めて文章にまとめる学習単元の系統

[2年生]





3 児童の実態

本学級の児童の実態は以下の通りである。(国語についてのアンケートより)

【調査日時：平成22年9月1日 調査人数33人 調査方法：質問紙法】

【I 国語に関する意識調査】

(1) 次の国語の学習の中で、あてはまるものに○をつけましょう。	とても楽しい	楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
ア. 声を出して教科書や本を読むこと	10人	19人	3人	1人
イ. 主人公や作者の気持ちを読み取ること	9人	9人	14人	1人
ウ. 説明文で新しいことを学習すること	15人	10人	7人	1人
エ. 静かに読書すること	25人	5人	2人	1人
オ. 自分の考えを発表すること	13人	8人	9人	3人
カ. 調べたことをまとめること	13人	9人	7人	4人
キ. その他	なし			

(2) あなたは読書が好きですか。理由も書いてください。		
ア. 好き (30人)	イ. どちらでもない (3人)	ウ. きらい (0人)
<理由> (回答が多かった順) ア. おもしろいから。(9人) ア. いろいろなことが分かって楽しいから。(6人) ア. 読むことが好きだから。(4人) イ. 好きな本もあるが、嫌いな本もあるから。(2人) イ. 好きでもきらいでもないから。(1人)		

(3) あなたは本で調べることが好きですか。理由も書いてください。		
ア. 好き (23人)	イ. どちらでもない (7人)	ウ. 嫌い (3人)
<理由> (回答が多かった順) ア. 新しいことをいろいろと知れるから。(12人) ア. 調べたいことが見つけれられたとき嬉しいから。(5人) ア. 詳しく調べられるから。(2人) イやウ. 難しいから。(5人) イやウ. 本を読む方が好きだから。(2人) イやウ. 調べるのはいいけど、書くのがめんどうだから。(2人)		

(4) 今までの国語の学習で好きなものは何ですか。下からえらんで、5つ〇をつけましょう。		
物語 (84) 「大きなかぶ」(6) 「くじらぐも」(21) 「スイミー」(24) 「お手紙」(18) 「きつつきの商売」(15)	説明 (57) 「じどう車くらべ」(11) 「どうぶつの赤ちゃん」(14) 「たんぽぽのちえ」(5) 「サンゴの海の生き物たち」(21) 「ありの行列」(6)	書く (25) 「いいこといっぱい一年生」(1) 「かんさつ名人になろう」(5) 「一本の木」(6) 「楽しかったよ二年生」(4) 「おもしろいもの見つけた」(9)

【Ⅱ 単元に関する調査】

(1) 大豆を食べたことがありますか。		
ア. ある (25人)	イ. ない (3人)	ウ. 分からない (5人)

(2) 大豆が使われている食品で知っているものを教えてください。			
・豆腐 (30人)	・納豆 (22人)	・しょうゆ (6人)	・豆乳 (5人)
・おから (2人)	・きなこ (1人)	・枝豆 (1人)	
△杏仁豆腐 (2人), ピーナッツ, しょうが, まめ, チョコ			

(3) 食べ物が何からできているのか考えたことがありますか。		
ア. ある (28人)	イ. ない (3人)	ウ. 無回答 (2人)

(4) 次の言葉の意味が分かりますか。	分かる	だいたい分かる	あまり分からない	分からない
ア. <u>消化</u> (しょうか)	16人	7人	8人	2人
イ. <u>豆をいる</u>	3人	8人	8人	14人
ウ. <u>豆をにる</u>	14人	13人	2人	4人
エ. <u>こなにひく</u>	3人	8人	5人	17人
オ. <u>すりつぶす</u>	23人	6人	1人	3人
カ. <u>しぼり出す</u>	22人	7人	1人	3人
キ. <u>いもをむす</u>	13人	7人	2人	11人
ク. <u>ゆでる</u>	28人	3人	0人	2人
ケ. <u>やせた土地</u>	6人	7人	8人	12人

(5) 説明文を読むときにどんなことに気をつけて読むといいと思いますか。			
・段落を分ける (4)	・読み方 (4)	・線を引く (3)	・, や。 (3)
・「次に」「その次に」などに気をつける (2)	・あらすじ (2)	・漢字	・文末表現
・分からない (14)			

(6)「せつそく語」で思いつくものを書きましょう。

・そして(8) ・それで(5) ・つぎに(3) ・だから(2) ・最初に(2)
・でも ・すると
△なにが △どうした △それを
・分からない(16)

(7)「しじ語」で思いつくものを書きましょう。

・これは(12) ・それは(4) ・これを(2) ・あれ(2) ・それ
△それで △そして △だから △なにが △どのように △どうなって
・分からない(19)

【Ⅰ 国語に関する意識調査】から

本学級は、本を読むことが好きな児童が多い。休み時間や活動の合間などに、自分で本を出して読む姿をよく見かける。物語を好む児童が多いが、それ以外にも図鑑をたくさん読んでいる児童もあり、新しく知ったことを友達同士で教え合うこともしている。これは、「説明文で新しいこと学習すること」を大部分の児童が楽しいと感じていることにもつながる。新たな知識を得ることに喜びを感じる児童が多いので、本単元でも新たな発見を大事に扱っていきたい。一方、「自分の考えを発表すること」や「調べたことをまとめること」については、学級の3分の1程度の児童が「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えている。自分の考えに自信がないために発表できない児童が多いようなので、全体の場で発表する前に、ペアやグループで確認する場を確保したい。また、調べ学習においては、調べること自体が難しいと感じている児童へ、本の探し方や調べたいことの見つけ方を丁寧に指導していききたい。

【Ⅱ 単元に関する調査】から

本学級の児童は、半数以上が大豆から豆腐や納豆が作られていることを知っている。しょうゆやきなこなども作られることを知っている児童もいる。しかし、事実として知っているだけで、実際に作られる過程を細かに知っている児童は少ないと思われる。本教材では、その作られ方が丁寧に説明されているので、読み取る際にしっかりとイメージできるようにしたい。また、本教材で出てくる食材加工方法の言葉については、多くの児童が「だいたい分かる」と答えているが、間違ったとらえ方をしていたり、知っているつもりになっていたりする児童も多いと考えられるので、国語辞典を活用して言葉の意味をおさえた上で動作化も取り入れて、作られる過程が明確に理解できるようにしたい。

接続語や指示語について思いつくものを挙げさせたところ、約半分の児童が「分からない」と答えている。3年生1学期の「ありの行列」で、接続語・指示語については気をつけて読み取りをしていたが、「接続語」「指示語」という言葉自体を覚えていないという現状と、現時点でまだ身についていない現状がある。本教材では、特に接続語に注目して読み取りを進めていくので、何度も言葉に出して児童に身につけさせたい。

4 指導上の留意点

本単元は複合単元となっており、「すがたをかえる大豆」の学習を通して筆者の論の展開を理解することが、「食べものはかせになろう」の書く活動の基礎となっている。この点を踏まえ、指導に当たっては以下のことに留意して学習を進めていきたい。

「つかむ・見通す」段階では、「すがたをかえる大豆」の導入として大豆・枝豆の実物や写真を使い、実際に触ったり見たりする体験をさせ、興味を持たせて意欲を高めたい。そして単元全体のゴール(読みの目的)を、「食べ物がかせになって自分が調べたことを本にまとめる」ことであることを知らせ、意識させて学習の見通しをしっかりと持たせたい。

「調べる」段階では、説明教材「すがたをかえる大豆」の読み取りを行う。初めに全文を範読す

る際は、新出漢字や分からない語句の確認をしながら聞くようにし、児童が音読・黙読する際は、重要語句（できる食品、接続語、「くふう」という言葉、大豆に手を加えるときの言葉、指示語）や中心文を見つけるといった目的意識を持ったものにさせたい。そのときは国語辞典を用いて意味をおさえたり、動作化したりして文章の内容がしっかりとイメージできるようにしたい。活動方法として、全体で学習の仕方やきまりなどを確認しながら活動した後は、個々に読み取る学習を取り入れたい。具体的には、学習する部分の段落を印刷したものと、ワークシートを用意し、サイドラインを引いたり丸や四角で言葉を囲んだりしながらまとめていき、内容を理解させたい。文章構成の学習の際は、1学期に学習した「ありの行列」（仮説検証型）と比較して、解説型の構成であることを学び、構造の違いを感覚的にとらえさせたい。

「深める」段階では、「食べものはかせになろう」をもとに自分でテーマを決めて調べ学習をし、段落構成や接続語に注意して書く活動を行う。最終的には、みんなの文章をまとめて学級で本を作る、という学習のゴールを明確に示すことで、目的意識をはっきりともたせて活動に取り組みせたい。調べ学習の際は、「本で調べる」をもとに本での調べ方を知り、目的にあった図書資料を探し、その中から調べたい事柄を選び出し、分かったことをカードに書かせていく。書く活動の際は、集めた情報を整理し小見出しを考えさせることで、段落意識をもたせたい。段落と段落を結びつけるときは、「すがたをかえる大豆」の接続語を参考にさせる。

「振り返る・生かす」段階では、作った本を読み合い、互いに評価し合う活動をする。文章の構成や、接続語・指示語の使い方、表現の方法など、友達が書いた文章のよさを見つけ、意見を交流させたい。その際、友達のよさを言葉で伝えたり文で伝えたりする活動を取り入れ、自分の考えを表現することにも積極的に取り組みせたい。

5 単元の目標

- 身近な食べ物について知識を得るとともに興味を広げようとする。
[国語への関心・意欲・態度]
- 中心となる語や文、段落相互の関係に注意して文章を読むことができる。 [読むこと]
- 身近な食べ物について情報を収集したり選択したりして、分かりやすく文章にまとめることができる。 [書くこと]
- 文章全体における段落の役割を理解することができる。 [言語事項]

6 指導計画と評価規準（全17時間）

過程	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
つかむ・見通す	1	<p>■学習の見通しをもつ。</p> <p>①題名をもとに、大豆を使った食品について知っていることを発表する。</p> <p>②教科書の単元構成に目を通し、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○大豆と枝豆を用意し、触らせたり比べたりして、興味を高める。</p> <p>○本単元が、説明文の読み取り—情報収集—文章を書くという構成になっていることをとらえ、最終的には本を作るという目的意識をもたせる。</p>	<p>【関】大豆に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。 [発言・観察]</p> <p>【関】大豆を使った食品について知っていることを発表している。 [発言・観察]</p>

2	<p>■「すがたをかえる大豆」を読み取る。</p> <p>①全文を読み、新出漢字と分からない語句の確認をする。</p> <p>②形式段落に番号をつけ、九段落からできていることを確認する。</p> <p>③大豆からどんな食品ができるのかを見つける。</p>	<p>○分からない語句には鉛筆で線を引かせ、調べさせる。</p> <p>○「ありの行列」の学習を想起させ、形式段落のつけ方を確認する。</p> <p>○大豆を加工してどんな食品になったのか、文章中から見つけさせ、言葉を青の丸で囲ませる。(※食品の写真)</p>	<p>【言】新出漢字の書き取りをしたり分からない語句の意味を調べたりしている。</p> <p>[観察・ノート]</p> <p>【読】大豆からできた食品を青で囲んでいる。</p> <p>[教科書]</p>
3	<p>①全体を「はじめ」「中」「終わり」に分け、段落相互の関係を考える。</p>	<p>○「このように」という接続語に着目して、「終わり」の部分から見つけさせる。</p> <p>○「ありの行列」の仮説検証型と異なり、説明型の文章であることに気づかせる。</p>	<p>【読】「はじめ」「中」「終わり」の大きなまとまりを理解している。</p> <p>[観察・ノート]</p> <p>【言】「このように」のはたらきが分かる。</p> <p>[観察・ノート]</p>
4	<p>①話題提示段落を読み、筆者が何について伝えようとしているのかを考える。</p>	<p>○文末表現や指示語に着目させ、話題提示を確認したり、大豆を食べるにはなぜ工夫が必要か読み取ったりできるようにする。</p>	<p>【読】筆者がどのような話題を提示しているのか読み取っている。</p> <p>[観察・ワークシート]</p>
5	<p>①大豆をおいしく食べる工夫を読み取る。(第③④段落)</p>	<p>○第2時で見つけた食品をもとに、おいしく食べる工夫がいくつあるか考える。(※食品の写真)</p> <p>○重要語句(接続語、「くふう」、大豆に手を加えるときの言葉、指示語)や中心文にサイドラインを引かせたり囲ませたりする。</p> <p>○分からない語句については国語辞典で調べさせる。</p>	<p>【読】大豆をおいしく食べる工夫を読み取っている。</p> <p>[観察・ワークシート]</p> <p>【言】重要語句に印をつけることができる。</p> <p>[観察・ワークシート]</p> <p>【言】分からない語句を国語辞典で調べられる。</p> <p>[観察・ノート]</p>
6 〈本時〉	<p>①学習の仕方を確認する。</p> <p>②大豆をおいしく食べる工夫を読み取る。(第⑤⑥⑦段落)</p>	<p>○前時の学習を振り返る。</p> <p>○個々に学習を進めさせるが、支援を必要とする児童へは、ヒントとなるカードを準備しておく。</p>	<p>【読】大豆をおいしく食べる工夫を読み取っている。</p> <p>[観察・ワークシート]</p> <p>【言】重要語句に印をつけることができる。</p> <p>[観察・ワークシート]</p>
7	<p>①多くの食べ方が考えられた理由と筆者の考えを読み取る。</p>	<p>○接続語「このように」「そのうえ」や文末表現「～からです。」に着目させ、大豆のよさや筆者の考えを読み取らせる。</p>	<p>【読】多くの食べ方が考えられた理由と筆者の考えを読み取っている。</p> <p>[観察・ワークシート]</p>
8	<p>①それぞれの段落の小見出しを考え、文章全体の構成を確認する。</p> <p>②学習の振り返りをする。</p>	<p>○文章の構成が分かるワークシートに段落ごとの小見出しを書き、段落意識を高める。</p> <p>○次時からの学習の見通しをもたせる。</p>	<p>【読】書かれている内容から適切な小見出しを作っている。</p> <p>[観察・ワークシート]</p>

深める	9	<p>■調べたことをまとめる。</p> <p>①「食べ物がかせになろう」を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>②調べたいことを決める。</p>	<p>○食べ物について書かれた本を提示し、意欲を高める。</p> <p>○調べたいことが決まらない児童には、いくつか例を示す。</p>	<p>【関】身近な食べ物に興味をもち、意欲的に調べようとしている。</p> <p>[発言・観察]</p>
	10 11 12	<p>①本での調べ方を知る。</p> <p>②調べたい食べ物についての情報を収集し、カードに書く。</p>	<p>○目次・索引の使い方を練習させる。</p> <p>○得た情報をカードに書かせる。調べた日や本の名前も書かせる。</p>	<p>【書】本で情報を収集し、必要な事柄をカードに書いている。</p> <p>[観察・カード]</p>
	13 14 15	<p>①情報カードを整理する。</p> <p>②まとめごとに文章を書く。</p> <p>③文章の構成や内容を推敲する。</p>	<p>○関連したカードをまとめ、それぞれ小見出しをつけさせる。</p> <p>○「はじめ」「中」「終わり」の構成で書かせる。</p> <p>○「すがたをかえる大豆」の接続語の使い方を参考にさせる。</p>	<p>【書】必要な情報を選択して書いている。</p> <p>[観察・カード]</p> <p>【書・言】段落を意識したり、接続語の使い方に気をつけながら書いている。[観察・カード]</p>
振り返る・生かす	16 1	<p>■評価し合う。</p> <p>①本を読み合い、友達のよさを見つける。</p> <p>②よいところを発表する。</p> <p>③よいところを文章でまとめる。</p> <p>④自己評価する。</p>	<p>○学習を振り返り、読む視点を与える。</p> <p>○発表ができない児童には、文章で表現させる。</p> <p>○友達の文章を読んだ感想も踏まえ、内容や書き方、情報収集について自己評価させる。</p>	<p>【関】意欲的に感想を述べている。[発言・観察]</p> <p>【書】友達の作品のよさに気づき、文章でまとめている。</p> <p>[観察・ノート]</p>

6 本 時 (6/17)

(1) 目 標

- 大豆をおいしく食べる工夫と、その工夫によってできる食品について読み取ることができる。
- [読むこと]

(2) 本時の指導に当たって

本時までには児童は、大豆を加工してできる食品（九つ）を青で囲み、大豆をおいしく食べる工夫が五つあることを確認している。前時では段落③④について、大豆をおいしく食べる工夫を詳しく読み取る活動をしている。

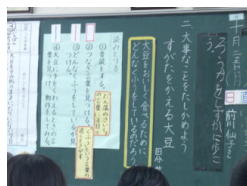
本時においては、「つかむ・見通す」段階で、前時の学習を想起させ、重要語句に着目しながらワークシートにまとめていくことをおさえる。その後、学習計画をもとに本時の学習のめあてと学習の進め方を確かめたい。



「調べる・深める」段階では、大豆を加工してできる食品の写真を提示し、それぞれどの段落で説明されていたかを確認する。その後、段落⑤について前時と同様に大豆をおいしく食べる工夫を全体で読み取っていく。重要語句（接続語、「くふう」という言葉、大豆に手を加えるときの言葉、指示語）をキーワードとすること、中心文は「くふう」という言葉に着目すればよいことなどをおさえながら、それぞれサイドラインの引き方や囲み方を確認する。ワークシートにまとめて全体で段落⑤の確認をした後、段落⑥⑦を個人で読み取っていく。支援が必要な児童には、どこに着目すればよいのかを示したカードを与え、個別学習が進められるようにする。個別に学習したことを全体で確認する際は、書画カメラを用いて児童のワークシートを映し出したり、サイドラインの引き方を確認したりする。

「振り返る・生かす」段階では、それぞれの段落で大豆をおいしく食べるためのどんな工夫があったのかを確認し、次時の学習について考える。

(3) 本時の実際

過程	主な学習活動	時間(分)	指導上の留意点 * [評価]・(方法)	準備
つかむ・見通す	1 前時までの学習を振り返る。	2	○ 前時までの学習を、ワークシートを使って振り返らせる。 ○ 重要語句や中心文に着目して読み取ったことを確認する。	書画カメラ ワークシート 赤ペン 青ペン 定規
	2 本時の学習のめあてを確認する。 大豆をおいしく食べるためにどんなくふうをしているのだろう。	2		
	3 学習の進め方を確かめる。 ① 第5段落を全体で読み取る。 ② 第6・7段落を個別に読み取る。 ③ ペアで確認する。 ④ 全体で確認する。 ⑤ まとめをする。	4	○ 学習の進め方を確認する際、流れを提示し見通すことができるようにする。 ○ 個別に学習を進めるときの順番ややり方は、第5段落を読み取るときに確認することを伝え、意欲的に取り組めるようにする。 ※ 積極的に活動に取り組もうとしているか。(観察・発言)	学習の流れを示した紙



調べる・深める	<p>4 大豆をおいしく食べる工夫を読み取る。</p> <p>(1)大豆を加工してできる食品の写真を見て、それぞれ何段落で書かれていたかを確認する。</p> <p>(2)第5段落を全体で読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読する。 ・つなぎ言葉を見つける。(赤の□) ・「くふう」という言葉をもとに中心文を見つける。(赤の___) ・大豆に手を加えるときの言葉を見つけ(青の___)動作化する。(・言葉の意味が分からないときには国語辞典で調べる。) <p>(3)第6・7段落を個別に読み取る。</p> <p>(4)ペアで確認する。</p> <p>(5)全体で確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大豆をおいしく食べるためのくふう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えいようをとり出してちがう食品にする。→とうふ ・小さな生物の力でちがう食品にする。→なっとう・みそ・しょうゆ ・とり入れの時期や育て方をくふうする。→えだ豆・もやし </div>	<p>(32)</p> <p>3</p> <p>1 2</p> <p>6</p> <p>2</p> <p>9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大豆を加工してできる食品の写真(豆腐, 納豆, みそ, しょうゆ, 枝豆, もやし)を黒板にランダムに貼り, 第5段落から第7段落に仲間分けする。 ○ 重要語句に注意しながら読むよう促す。 ○ 第5段落の学習が, 個別で読み取りをする第6・7段落につながることを伝える。 ○ サイドラインを引いたり囲んだりしながらワークシートにまとめていさせる。 ○ どのように大豆に手を加えているのかイメージするため動作化し, 写真で確認する。 ○ 支援を必要とする児童には, どこに着目したらよいのか板書してあることを確認する。 ○ どんな工夫をして何という食品ができるのかをおさえる。 ○ 大豆に手を加える言葉を取り上げ, 実際にどのような活動をするのか動作化し, イメージをもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 大豆をおいしくする工夫を読み取っているか。(ワークシート) ※ 重要語句をおとさず見つけられているか。(サイドライン) 	<p>食品の写真</p> <p>活動の手順を示した紙 書画カメラ ワークシート 赤ペン 青ペン 定規 国語辞典</p>
振り返る・生かす	<p>5 本時の学習を振り返り, 大豆のDVDを見る。</p> <p>6 次時の学習について話し合う。</p>	<p>4</p> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 板書やワークシートを見て活動を振り返らせ, 発表させる。 ○ DVDを見てイメージをもつ。 ○ 「終わり」のまとまりの読み取りをする ことを伝える。 	<p>書画カメラ ワークシート DVD</p>

(4) 板書計画

<p>⑦</p> <p>ほかに これらの</p>	<p>⑥</p> <p>さらに</p>	<p>⑤</p> <p>また</p>	<p>段落</p> <p>つなぎ言葉</p>	<p>読みとり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読をする。 ・つなぎ言葉を見つけ ・どことなくふうをしいて ・大豆に手をくわええ 動作をしてみる。 	<p>大豆をおいしく食べるためのくふう。</p>	<p>二 大事なことをたしかめよう すがたをかえるため</p>
<p>とり入れる て方をくふう</p>	<p>目に見えない 生物の力を がう食品に</p>	<p>大豆にひく 切なえいよ 取り出して 品にする</p>	<p>大豆をおいしく</p>			



サイドラインについて

- ・ 食品→青の○
- ・ 「くふう」という言葉→赤の○

- ・ 接続語→赤の□
- ・ 中心文→赤の_____
- ・ 大豆に手を加える言葉→青の_____
- ・ 指示語→黒の○